

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「個人に最適化された社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

他者とのインタラクションを支えるサービスの創出

3. 研究開発課題名

ニューロダイバーシティ環境下でのコミュニケーション双方向支援

4. 研究開発代表者名（機関名および役職は評価時点）

大須 理英子（早稲田大学人間科学学術院 教授）

5. 評価結果

評点： A 優れている

総評：

本研究開発課題は、神経多様性（ニューロダイバーシティ）に着目したコミュニケーション技術を開発することにより、自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠陥・多動症（ADHD）を持つ人々が生き生きと活躍し、幸福度と生産性の向上を図り、さらに多様性と心理的安全性の両立を可能とする社会、および精神的・社会的に幸せな社会の実現を目指すものである。

探索研究期間では、工学、情報学、医療心理学の研究者が連携し、VR 技術と映像データを心理学の知見に基づいて活用することで、ASD 者と定型発達（TD）者の視線の動きをリアルに追体験できるシステムの構築に成功した。また、このシステムが、TD 者のダイバーシティ理解に貢献する可能性を示したことを評価する。さらに、ASD 群と TD 群によるコミュニケーションの志向性とウェルビーイングの関係を評価する手法を開発し、コミュニケーション志向性とウェルビーイングの関係について明らかにした。

今後は、本技術の研究開発がさらに発展し、ASD 者や TD 者を含むすべての人々が心理的に安全な環境で働き、精神的・社会的に幸せな社会の実現に寄与することを期待する。

以上